

PTAだより

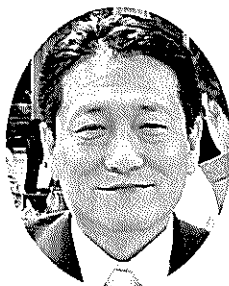
に
榎

発行

令和五(二〇二三)年三月一日(水)
北海道札幌北高等学校
定時制課程PTA

歴史の重み

PTA会長 酒井 隆平



本年度、本校は庁立高女創立以来120年を迎えました。

明治34年第1回北海道会にて設置が認められ、北海道初の公立女学校となりました。翌35年5月開校・入学式が行われ、10月には北2条西1丁目に一期工事の校舎に新築移転しました。この庁立高女の校地は後に陵雲中・大通小・大通高校と現在に至ります。

昭和25年札幌北高になり、ここより男女共学となりました。

昭和28年5月1日に定時制課程が設置され、昭和29年には現在地に移転しました。

東西南北で2番目の歴史があります本校ですが、定時制の歴史でも2番目になります。開学は南高の1891年(北嶋学校)の次、定時制は西高の1923年(札幌中等夜学校)の次であり、今年で70年古希になります。南高が庁立一中、西高が庁立二中、東高が区立高女、北高が庁立高女です。

10月7日には120周年記念式典も行

われ、生徒会長の小川朝瞳さんのお祝いの言葉も立派で感心させられました。69代引継がれた生徒会長のプレッシャーや責任を感じつつ、イベントの成功に誇りと自信を得られたことと思います。

私自身は北高の卒業生ではありませんが、庁立高女の跡地の大通小学校、同じく跡地の陵雲中学校の後継中央中学校の卒業であります。高校は北高が三度の火災に被災し、その際建てられたプレハブの仮校舎で開学した西陵高校卒業であります。

何となくの縁をも感じてPTA活動をしてまいりましたが、母方の大叔母が昭和17年から27年まで庁立高女の家政科の教鞭を取っていたこともわかり尚更縁を感じます。

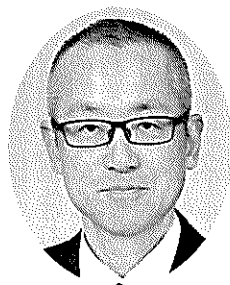
私の娘が入学したころは3間口の募集があり、全定併設の公立高校としては、全国的にも稀なマンモス校であり2間口に減じた時も一次募集時は定員に達するほどの応募がありました。

時代の流れで多様な私立高校も出来、クラス間で競える特色は無くなりましたが、歴史の火を灯し続けて貰いたいものです。

2053年には定時制100周年記念式典に出席出来るように健康に気を付けて過ごしたいと思います。

問いが全て

学校長 林 正憲



毎日の生活は問いに満ちています。

今朝は雪が積もっているが、走ろうか、止めようか。

そして、答えを出します。―よし、止めておこう。

ネットで動画を観る時間があるだろうか。―仕事が終わってからにしよう。

あの面倒なことをいつやるのか。―よし、今日やってみよう。

人生は問いと答えの往復運動です。問いを自分で立てず、人から与えられるだけだとつらい。

受け身は楽しくない。与えられた問いに答えなければならぬのは、自由な感じがしない。

私は中学時代は、生徒会活動に青春を捧げ、そこでは自分たちで問いを立てました。

来年の学校祭をどうしよう。テーマをどうしよう。

しかし、勉強はダメでした。与えられ、それをこなさなければならぬ。嫌だから、やらない。やらないから、わからない、できない。ますます嫌になる。悪循環です。

高校進学でつまずいて、とても後悔しました。もっと勉強すればよかったと思いました。同じ思いは二度と繰り返したくない。勉強ができないと選択肢が狭くなる。逃げてはダメだ。

だから、高校では頑張りました。頑張

ると、わかる、できる。それが楽しいから頑張る。好循環です。

わかって、できると、自分の頭が働くようになる。「これはどうしようことなのだろう」「何がポイントなのだろう」と。

先生から「これはどういうことですか」「重要なポイントはこれです」と説明されるよりも、ずっと楽しい。

自分で問い、自分で答え、確かめる。理解が深まっていく。知識が確かなものになる。自信がつく。さらに楽しくなる。

学ぶことは、一生続きます。私は高校時代に学びの楽しさに目覚めてよかったと思います。

未知のことがあっても「これはなんだ」「それはなぜだ」「だからどうなる」と自分で考えて答えを出してみる癖がついたからです。

「ああしない」「こう考えなさい」と他者から答えを与えられるより、命じられるより、はるかに楽しいです。

歴史作家の塩野七生さんは、ルネサンスの天才、レオナルド・ダ・ヴィンチは、いつも「なぜだ、なぜだ」と考えていて、その探究が「モナリザ」その他傑作を生み出したと言います。ダ・ヴィンチに未完成作品が多いのは、「なぜ」の探究に答えが出てしまえば、作品を完成させることに興味がなくなってしまうからだ。

発明王エジソンが子どもの頃、大人をつかまえては「火はどつして燃えるの?」などと質問攻めにしていたのも有名な話です。

問いは最強です。私も悩んだり、困ったりすることが多々ありますが、その状態に留まるのが大嫌いです。何時間も何日もモヤモヤするのが嫌なのです。

したがって、問いに変換します。とに

かく、答えを出してみます。正解がわからないので、やってみる。言ってみる。違っていたら、また問いを立てる。その繰り返しです。

問いを立てると、流されるのではなく、人生の流れをつくる事ができます。

固まった答えを抱えている人が周りにいませんか。つまらなそうに見えます。

生徒の皆さん、かけがえのない人生、問いを立てて、楽しく突き進んでください。

卒業生より

第四学年主任 滝村 聡宏

日頃より本校教育活動にご理解とご協力を賜り、保護者の皆様、PTA・後援会の皆様に感謝申し上げます。

入学当初、A組は小野山先生、B組は高品先生で学年が組織され、クラス替えを経て、私は三年次からA組の担任となりました。四年間のうち、約三年にわたるコロナ禍によって振り回されました。

「密」を避けながら、制約の多い高校生活を強いられました。そのような中で授業や学校行事、部活動、進路活動など本当にしっかりやりきったと思います。

考えてみると、このコロナ禍も一つの時代の変化の幕開けに思えるのです。例えば、授業やホームルームにクロムブックの導入がなされました。定時制ではリモート授業まではいきませんでした。ICTの導入が一気に進んでいます。学校祭については、模擬店ではなく、密を避けながらの体育大会と芸術鑑賞に変更されました。部活動においては感染対策を徹底した上での活動で、昨年のごとですが二つの部活動が全国大会へ行くことにもなりました。進路活動の進学については、大学も専門学校も出願について

は、ほとんどWEBになっており、今後は様々な分野においてパソコン・タブレットやスマートフォンによるリモートの取り組みが主流になっていくと思われます。面と向かって顔を突きあわせていく活動も工夫しながら行うことが当然になっていくでしょう。このように、今まで通りではない状況に対応しながら活動していかなければならないのです。卒業生の皆さんは高校在学中に、すでに変化への対応をせざるを得なく、見事に対応できただけではなく、その状況下で大きな成果をあげたのです。

卒業するということは、次の新たな環境の中で生活が始まるということです。今まで通りではない対応が求められるのです。厳しいことや辛いこともあるとは思いますが、卒業生の皆さんは、きちんと対応できるだけではなく、活躍し大きな成果を残すことができるものと信じております。



北定フェスつなひき

今年度を振り返って

生徒指導部 木太 宏人

新型コロナウイルス感染症の対策を講じ始めてもう三年が過ぎ、四年目に入りますが、未だ感染の波は続いており、第八派まで数えています。そんな中、本校では感染症対策の徹底を継続しながら、一件のクラスターも発生させることなく、今年度を終えようとしています。

札幌市内の小・中学校と高校の中で、学校閉鎖や学年閉鎖及び学級閉鎖が相次いだ中で、本校定時制では、学校・学年・学級のいずれも閉鎖することなく、予定されていた通りに行事等を実施でき、一年間を通して、教育活動を続けることができました。このことは、保護者の皆様のご理解とご協力により、全校生徒一人ひとりの継続した自覚ある行動に現れて実現していることです。感染拡大防止のための毎日の検温、手指洗浄・消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、三密、換気、健康観察票の提出などが徹底された結果です。このことが象徴しているように、学校生活は非常に落ち着いた状況でした。

本校定時制の生徒指導上の共通目標を『安全で安心な学校』とし、全校生徒が安全で安心して通える学校の実現のため、①いじめのない学校 ②暴力のない学校 ③授業妨害のない学校 を三本柱に生徒指導をしています。

また、一人一人の生徒を理解することを第一に考え、年度当初に設定されている個人面談週間での面談だけではなく、長期休業前・後や必要に応じて個人面談を実施しています。教員以外にも相談することができ、専門的な立場からアドバイスやケアしてもらえ、スクールカウンセラーも毎月来校してもらっています。今年度は大きな生徒指導事故は無く、終えることができました。

本校定時制の進路状況推移について

進路指導部 山下 亮三郎

私が北定に着任し、今年で13年目になります。13年前といえば、今年卒業する4年生が小学校に入学した年でもあります。この13年間、社会の変化と共に北定もいろいろな面で変化してきました。何と云っても、生徒数が大幅に減少したことですが、進路状況においても変化がありました。左上の表はこの5年間の推移を示したものです。

2020年(令和2年) 4月より、『高等教育の就学支援制度』(文部科学省)がスタートしました。この制度は「給付型奨学金」と「授業料等減免」の2本柱となっています。この制度が始まる前は、就職が多く、経済的な理由で進学をあきらめる生徒が少なくはありませんでした。しかし、令和3年3月卒業生からは進学が増加し、年度によって異なりますが、就職と進学の割合が逆転してきている状況です。(この制度の概要は、定時制ホームページの進路指導部・奨学金関係に掲載しています。また、この手続き等の日程なども奨学金資料として掲載しています。)

就職に関しては、コロナ禍の長期化の影響が心配されましたが、団塊世代の退職や少子化、大学や専門学校への進学生徒数の増加などの影響により、札幌圏内の高卒求人倍率はさほど低下せず、今年度は令和4年11月現在で5.95倍(昨年度4.70倍)と大変高い状況になっています。企業の今後を担う若手の人材不足が問題となっており、企業によつては2次・3次募集を行ったり、学校に直接募集の連絡がくる状況になっています。このような状況の中、希望の進路を実現させるためには、どのような活動に取り組んでいけばよいのでしょうか。

令和4年度 進路決定状況

(R5:1・20(金)現在)

【就職内定企業】

北海道旅客鉄道(株)

(株)ラルズ

介護老人福祉施設白ゆりあいの里

元気寿司(株)

ルートインジャパン(株)

(株)グランビスタホテル&リゾート

札幌グランドホテル

今年度も昨年に引き続き、早い段階で就職希望生徒は100%決定しました。これは、早い段階で進路意識を持ち、その実現のために様々な活動を計画的に行ってきた結果です。ここ数年、学年全体が進路に対する意識が向上し、前向きな雰囲気になっているように感じられます。

進路目標は生徒それぞれ違いますが、自分に合った進路を実現しました。

R1・3 卒業生	進学(16.7%)			就職 (62.5%)	その他 (20.8%)
	大学	短大	専門		
男子	2		1	9	
女子			1	6	5
R2・3 卒業生	進学(32.1%)			就職 (50.0%)	その他 (17.9%)
	大学	短大	専門		
男子	4		3	9(4)※1	1
女子			2	5	4
R3・3 卒業生	進学(40.5%)			就職 (27.0%)	その他 (32.4%)
	大学	短大	専門		
男子	1		6	4	4
女子	1	1	6	6	8
R4・3 卒業生	進学(33.3%)			就職 (52.8%)	その他 (13.9%)
	大学	短大	専門		
男子	3		4	18(7)※1	4
女子			5	1	1
R5・3 卒業予定	進学(48.6%)			就職 (31.4%)	その他 (20.0%)
	大学	短大	専門		
男子	7		5	6(1)※1	3
女子	1		4	5	4

【進学先】

(株)デンコードー
グレースデンキグループ
ナカ工業(株)
(株)札幌中央清掃社
一般曹候補生
自衛官候補生

北海道情報大学

(情報メディア学
部・情報メディア
学科、経営情報学
部・システム情報
学科)

北海道医療大学

(看護学科)

北翔大学

(教育文化学部・心
理力ウンセリング
学科)

札幌大学(地域共創学群)

札幌国際大学

(人文学部・心理学科臨床心理
専攻)

北海学園大学

(経済学部II部、法学部II部)

札幌商工会議所付属専門学校

(情報・マネジメント学科、経
理・事務学科)

北海道情報専門学校

(ゲームWeb科2名、ゲーム
クリエイタ科)

札幌医療リハビリ専門学校

(理学療法学科)

北海道工科専門学校

(環境土木工学科)

札幌どうぶつ・医療専門学校

(愛玩動物看護学科)

各種検定合格者数

(1月20日現在)

実用英語技能検定

2級 1名
3級 1名

日本語ワープロ検定

2級 3名
3級 1名

情報処理技能検定

準2級 5名
3級 15名

表計算

準2級 2名
3級 9名

日本漢字能力検定

3級 5名

120周年 記念式典より

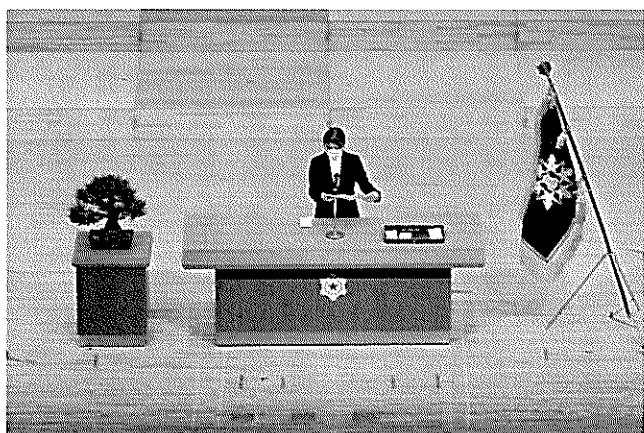
今年度、本校は創立百二十周年を迎え、十月七日に記念式典を挙行了しました。その式典の最後に定時制生徒会長(現在は前会長)の素晴らしい挨拶があり、多くの方々から称賛が寄せられました。一部を抜粋して紹介致します。(全文はHPを参照ください)

「お祝いの言葉」

第八十九代定時制生徒会長 小川朝瞳

今から百二十年前、北海道庁立札幌高等女学校が本校の前身として明治三十五年に誕生しました。続いて札幌北高等学校定時制課程が昭和二十八年五月一日、生徒数男子四十八名、女子二十三名でスタートしました。昭和二十九年定時制生徒会機関誌「萌」の創刊号の挨拶文で、初代生徒会長の岩本健二さんが、「昨年五月晴れの空に学校の門を叩き、正義を求め、がっしりとした足取りで、胸を張り…」入学式に挑んだと述べられ

ていました。入学の意気込みを感じます。また、同号で生徒会文化部長の新井さんは、「昼は各職場において夫々各自の任務を果たし、夜は星が瞬く頃我が学び舎に若い情熱を捧げて連夜過ごしてきました。」と述べられました。ご苦労をされ、「働きながら学ぶ」機会を勝ち取られ、精一杯学ばれた姿に私は共感し、心を動かされました。私が前会長から受け継いだバトンは、遡ると、初代会長から受け継いだ六十九回目の会長としてのバトンだったので。改めて責任の重さを実感しました。定時制高校は、社会を学びながら、高校生にとって必要な力を身につける大切な学びの場だと私は考えます。入学理由は様々ですが、多くの生徒が働きながら眠い目をこすり勉学に励んでいます。永きにわたる歴史と伝統の一面面を自分が担えたことを自信と誇りに変え、札幌北高等学校の発展を願い、お祝いの言葉とさせていただきます。



120周年記念式典 小川朝瞳さん

一年間のあゆみ

前期

- 4月 8日 入学式
11日 着任式・始業式・
11日 個人面談週間
13日 新入生歓迎会
27日 PTA・後援会総会
- 5月 6日 交通安全講話
11日 定通体連地区壮行会
20日 開校記念日
25日 生徒総会
- 6月 1日 情報モラル講演会
10日 防災避難訓練
14日 前期中間考査
22日 清掃ボランティア
- 7月 8日 芸術鑑賞
15日 120周年記念講演会
22日 第2学年研修旅行
26日 8月18日 夏季休業



清掃ボランティア

- 8月 19日 基礎学力コンクール
31日 薬物乱用防止講話

- 9月 2・5・7日 前期期末考査
29日 北定フェス2022①
(体育大会)
30日 北定フェス2022②
(映画鑑賞)

後期

- 10月 4日 後期始業式
7日 創立120周年記念式典
19日 生徒会役員選挙
26日 生徒会役員認証式



120周年記念式典

- 11月 10日 学校説明会
15日 18日 第3学年見学旅行
25日 防災学習・講話
29日 30日 後期中間考査

- 12月 1・2日 後期中間考査
27日 1月19日 冬季休業
- 1月 30日 救命講習会(4年)
- 2月 20日 22日 後期期末考査
28日 同窓会入会式
- 3月 1日 卒業証書授与式

令和4年度 PTA事業報告

- 4月 8日 入学式
PTA・後援会入会式
PTA・後援会総会
- 5月 27日 高P連石狩支部総会(書面審議)
- 6月 6日 北海道高P連総会
(ライフオート札幌)
- 8日 石狩地区教育振興会総会
11日 北海道高P連大会
(オンライン開催)
- 8月 25・26日 全国高P連大会
(石川県金沢市)
- 3月 1日 第67回卒業証書授与式
下旬 PTA後援会役員会(予定)
- 4月 上旬 会計監査(日程未定)

令和4年度 役員

《PTA》

- 会長 酒井 隆平
- 副会長 杉山 明美 3A
副会長 斉藤 光司 1A
副会長 竹居田幸藏(教頭)
- 庶務 坂本 望都 4A
庶務 山下 明美 4B
庶務 五十嵐 望 3A
庶務 本田 貴俊(教諭)
- 会計 青木 馨市

(事務長)

- 会計監査 橋本 文恵 2A

《後援会》

- 会長 岡崎 恵治
- 副会長 高柳実栄子
- 庶務 熊谷義枝子
庶務 中谷 嗣美
庶務 本田 貴俊
会計 宇井 陽一
会計監査 久野 教子

